

## ありのままの自分

10月6日(土)、東松島市の東松島コミュニティセンターで、第60回となる、定時制通信制生徒生活体験発表県大会が行われました。本校からは、1年生の小野 知美さん(白石中出身)が、代表として参加しました。『ありのままの自分～高校生になって～』と題し、素直な自分の思いを、静かに淡々と、しかも堂々と発表しました。大変立派な発表でした。



県大会で発表する小野 知美さん

県大会での、小野さんの発表の全文を次に掲載します。

高校は、つまらない場所、行く意味がない場所。

そんなイメージを持って私はこの春、白石高校七ヶ宿校に入学しました。

ところがこの学校は、入学当初持っていた不安を取り除き、私の「高校」というイメージを変えてくれました。

中学生のころ、私は今に比べると結構おとなしかったです。

中学校は小学校に比べ、人との関わり方も難しくなった気がします。私には向いていなかったのかもしれませんが。

人数が多い分、苦手な人が多かったし、頭がいい人も多かったです。私は多分、いてもいなくても変わらない存在だったのではないかと思います。

基本的に関わらなくていい人とは関わらず、必要な時以外は話さない。自分が関わりたいと思った人とは関わり、話す。どうせ嫌われている。だったら相手もしゃべりたくないだろう。そう思っていました。その当時の私は、人間を信じていなかったのかもしれませんが。

目立たない。自分を出さない。つまらない。これが私の中学校生活でした。

入学した当初は 高校も同じだと 私は思っていました。

しかし七ヶ宿校は、ありのままの自分を出せます。

この学校は生徒の人数が少ない学校です。全校生徒は三十三人、一年生は十三人しかいません。少ないからこそ、行事などでは一人一人が活躍できます。

しかし、その分、一人でもさぼると迷惑。やりたくないこともやらなければいけない。違うタイプの人とも協力しなければいけない。大変だけれども、身につくことがたくさんあり、この学校のおかげで私は自分を出せるようになりました。毎日がとても楽しく、この学校に来てよかったなと思っています。

そう思う一方で、もう一人の自分がこんなことをつぶやく時もあります

「これって言いすぎじゃないの。」

自分をおさえない分、悪い自分も出て、悪いことが起こるようになってきました。

七ヶ宿校の気楽で親しみやすい雰囲気がそうさせたのか、「陰で言うよりいい」と思った私は、友達の良いところを本人に直接言ったことがありました。言っているうちに、友達は涙目になってしまいました。でも私は謝りませんでした。謝ろうと思いつつ、いつまでも謝らない自分がいました。

私はその時、はっと気づきました。

「私は、ずばずば言いすぎて友達を傷付けている」

「相手の内面に土足で入り込みすぎている」

私は今、自分の性格を変えたいと思っています。でもイライラしたり、きつすぎたりする自分がいます。人の嫌なところしか見えていない自分がいます。

そんな自分を変えるにはどうしたらいいのか。

人それぞれ考え方が違うから、話もこじれる。だから、人の考えを聞く姿勢を持ちたいです。

「自分だけがよければいい」じゃなく、いろいろな人と出会い、いろいろな考え方に接することを通じて、成長していきたいです。

考えかたを変えたいのならまず、相手の考えを聞くこと、相手を認めること、それが大事だと私は思います。

正直に言うなら、中学校の自分に比べて、これまでの高校生活で どのくらい変わったのかは自信がありません。

でも私の高校生活は、はじまったばかり。これからです。

人と出会い、友情を深め、自分の間違いを認められる、強い人間になりたいです。そんな人間になるための土台を今、この学校で作っていきたいと思っています。

今の私の「高校」のイメージは、行くことで何かを知ることができる場所。

相手とのぶつかりをきっかけに、相手のことを知り、知ろうとする努力の大切さを自覚する、自分を深く知ることができる場所。

後悔する場所ではなく楽しい場所。楽しむべき場所。

こう変わりました。

楽しい高校生活。それを作り出すのが自分。自分たち。この人数だからこそ、深い絆が生まれるのではないのでしょうか。

これからの高校生活、七ヶ宿校だからこそ用意されている いろいろな活動の場において、目標をどんどん増やしていき、それを実現できるようにしたい。

そして、まだはっきりと決まっていない私の夢を見つけたいです。

今はまだ自分というものを見つける旅の途中。高校生活を通して、自分が知らない自分を見つけます。



会場前で 右から二人目が小野さん

**10月21日(日)午前10時～**

**白七祭**です。

**お待ちしております。**